

教 育 長 様

研究コース	グループ研究Bコース	選定番号	103
校園コード(代表者校園の市費コード)		561155	

代表者 校園名： 大阪市立本田小学校
 校園長名： 錢本 三千宏 校印
 電話： 06-6581-1531 FAX: 06-6581-3194
 申請者 校園名： 大阪市立本田小学校
 職名・名前： 首席教諭・流田 賢一
 電話： 06-6581-1531 FAX: 06-6581-3194
 代表者校園 事務職員名： 大谷 由香

平成30年度 「がんばる先生支援」グループ研究 報告書

◇ 平成30年度「がんばる先生支援」グループ研究について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究Bコース	研究年数	継続研究(2年目)
2	研究テーマ	資質・能力を育成する国語科授業のあり方 —パフォーマンス評価を活用して—			
		国語科、資質・能力、指導力向上、パフォーマンス評価、学力向上、カリキュラム・マネジメント、汎用的能力			
3	研究目的	<input type="radio"/> 次期学習指導要領でめざす児童の育成 <input type="radio"/> カリキュラム・マネジメントと学習評価の充実 <input type="radio"/> 資質・能力を育成し、汎用的能力が身についた児童の育成 <input type="radio"/> 教科の本質をとらえた授業づくり研究会を定期的に開催 <input type="radio"/> 先進的研究校から講師を招聘し、公開授業・講演会を企画・運営し、大阪市全体へ拡大			
4	取り組んだ研究内容	◆ 4/18,5/17	がんばる先生取り組み内容を検討、取り組み内容・年間計画を作成		
		◇ 5/1	児童の実態調査		
		◆ 6/8	公開授業(6/18)に向けて本グループの取り組み内容の報告準備		
		☆ 6/18	白石先生公開授業研究会(地震のため延期)、申込者に資料を配布		
		◆ 6/22,29, 7/2,12	物語文の指導の系統性を明らかにするために、 物語文(低学年)の複数教材検討・次期学習指導要領の読み合わせ		
		★ 8/4,5	国語教育全国大会(東京) 参加		
		★ 8/6,7	全国国語授業研究会(筑波大学附属小学校) 参加		
		★ 8/17,18	E.FORUM(京都大学)全国スクールリーダー育成研修 参加		
		◆ 8/22	教材分析研究会(8/27)の準備、教材分析、報告内容の準備、冊子印刷		
		☆ ◇ 8/27	教材分析研究会 低:お手紙、中:白いぼうし、高:注文の多い料理店、アンケート		
		◆ 8/31	教材分析研究会の振り返り、公開授業準備、 次期学習指導要領(読むこと・物語)の系統と学習内容を併記してまとめる		
		☆ ◇ 9/10	公開授業研究会 師範授業、取り組み発表、白石先生の講演、アンケート		
		◆ 9/19	公開授業の振り返り、物語文の指導の系統性を明らかにするために、 物語文(中学年)の複数教材検討、公開授業の指導案検討		
		☆ ◇ 10/12	公開授業研究会 提案授業 中:白いぼうし、高:注文の多い料理店、 師範授業:きつねのおきやくさま、取り組み報告、青木先生の講演、アンケート		
		◆ 10/16,31	振り返りアンケートから取り組み内容を再検討、物語文の指導の系統性を 明らかにするために、物語文(高学年)の複数教材検討、実践事例をまとめる		
		☆ ◇ 11/28	公開授業研究会(パフォーマンス課題)、プレゼンテーション発表、アンケート		
		◆ 12/7	複数教材の実践事例をまとめる(物語・説明文)、指導案検討、公開授業の準備		
		★ 12/26	国語授業づくりセミナー(筑波大学附属小学校) 参加		
		☆ ◇ 1/7	教材分析研究会 低:スイマー、中:モチモチの木、高:きつねの窓、アンケート		
		★ 1/26	東京学芸大学大泉小学校研究会(東京) 参加 (視察 他多数参加)		
		☆ ◇ 1/28	公開授業研究会 提案授業 中:モチモチの木、高:きつねの窓、アンケート 師範授業:わにおじいさんのたからもの、取り組み報告、白石先生の講演		
		◆ 2/20	アンケート分析、今年度の振り返り、報告書作成		
		凡例 ☆公開授業・研究会実施 ★先進的研究校視察 ◇アンケート、インタビュー ◆国語研修会			

		<p>◆これまでの検証と成果</p> <p>1年目は、説明文の指導の系統を年間を通して研究した。カリキュラム・マネジメントにより学期に複数教材の指導を提案した。つける力とともに各学年の複数教材を整理し、成果物として冊子を作成・配布した。年間3回の公開授業研究会は提案内容と実践を結びつけるものとなり、参加者全員満足のアンケート結果を得た。児童の学びの姿は、アンケートにより「できた」「わかった」と回答する児童の割合が9割を超える「楽しい」と回答する児童も9割を超えた。（添付1：昨年度末に発表した資料）</p> <p>○研究会参加者のアンケート分析より</p> <p>【カリキュラム・マネジメントを活用した指導法の提案】</p> <p>今年度は、教材分析研究会と公開授業研究会の連続講座を設定した。つまり、教材分析した教材で公開授業を実施する流れとし、机上で学んだことを実際の授業で学びの効果を確認できる研究会とした。アンケートから複数教材の活用と効果について分析する。最初90%以上が複数教材を活用していないと回答したが、提案授業後ほぼ100%の方が有効性を感じると回答した。私達の主張が受け入れられたと考えられる。来年度も引き続き開催してほしいと、研究会の持ち方や提案内容が多くの参加者に好評であった。</p> <p>また、研究のまとめとして配布した冊子は100%の参加者が「活用できる」と回答し、参加できなかった教員からも郵送の依頼があったほどである。複数教材の実践例は、研究内容の理解に役立ったと反応をいただいた。（添付2：プレゼン資料）</p> <p>【次期学習指導要領を見据えた教師の指導力向上】</p> <p>アンケート項目の「系統性を意識することは大切である」（指導観）と「系統を意識した指導をしている」（活用）を参加回数と組み合わせて分析する。参加回数に関わらず、系統性を意識した指導は大切だと回答した割合は、ほぼ100%であった。一方、授業での活用の肯定的割合は、初めての参加者は20%だった。しかし、参加者は参加回数が増えるほど活用の肯定的割合が高くなり50%を超えていた。これは、本研究グループが提案している「系統性を大切にした指導」を受け入れられ、実践まで広がったと考えられる。研究グループで検討した活動内容とともに、次期学習指導要領「読むことの学習過程」の系統一覧を複数回公開授業研究会で配布した。これも系統を意識した指導に役立ったと回答があった。</p> <p>○児童のアンケート分析より</p> <p>【学びに向かう力】</p> <p>アンケート結果より、国語科の学習が「できる」「わかる」と回答した児童の割合は年度始めより増加し9割を超えた。また、学習が楽しいと回答する児童も8割を超えた。</p> <p>【汎用的能力、メタ認知】</p> <p>資質・能力を育成するためにパフォーマンス評価に取り組んだ。パフォーマンス評価の設定は、読むことと書くことを複合した単元設計が有効だった。来年度も継続したい。単元の最後には、「身についた力」を記述し自らの学びを振り返り、メタ認知できるように工夫している。</p> <p>○研究内容を広める</p> <p>【研究会の参加者】</p> <p>5回の公開研究会への参加者は、約600名を超えた。研究内容を授業や取組で提案し、最後には成果を冊子にして「物語文の複数教材・実践例」「説明文の複数教材・実践例」「次期学習指導要領の読むことの学習過程一覧」を配布した。申請校の公開に加えて南百済小学校でも実施したため、近隣の学校から多くの教員が参加でき、好評であった。（添付3：研究のまとめ）</p> <p>【研修会の回数】</p> <p>国語科の研修会は、1学期に8回、2学期に9回、3学期に3回の合計20回実施した。がんばる先生支援メンバーに限らず、希望する複数校の教員が参加し議論を深めてきた。</p> <p>【他校への指導助言・提供授業】</p> <p>他校での国語科の研修を年間10回、他校での提供授業を年間3回実施した。本研究内容の複数教材の活用や指導の系統性は研修会の中で賛同を得た。</p> <p>【研究内容の発信】</p> <p>研究の内容は本校のホームページで発信している。それに加え、大阪市教育研究会国語部でパフォーマンス評価を活用した検証授業と研究報告をした。（添付4：報告資料）（添付5：プレゼン資料）（添付6：児童の発表DVD）また、国語教育（明治図書）11月号に読むことと書くことを関連させたパフォーマンス評価の実践を掲載していただいた。（添付7：原稿）（添付8：児童の作成した物語文等の作品）</p> <p>○まとめ・来年度に向けて</p> <p>系統を意識し、単元のゴールを決めて読むことにより、学習の目的が明確になった。来年度は、複数教材を活用した指導を継続し、一覧表を改善していきたい。</p>							
5	成果・課題	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: #f0f0ff;">カリキュラム・マネジメント 学期に複数教材</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">7時間単元</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 2 3 4 5 6 7</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #ffffcc;">カリキュラム・マネジメント 身につけたい力を明確に</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ブレ教材 2時間</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">本教材 5時間</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">1 2 1 2 3 4 5</td> </tr> </table> <p>資料1 複数教材を活用した単元計画</p> <p>資料2 プレ教材の実践例</p> <p>資料3 まとめの冊子</p>	カリキュラム・マネジメント 学期に複数教材	7時間単元	1 2 3 4 5 6 7	カリキュラム・マネジメント 身につけたい力を明確に	ブレ教材 2時間	本教材 5時間	1 2 1 2 3 4 5
カリキュラム・マネジメント 学期に複数教材									
7時間単元									
1 2 3 4 5 6 7									
カリキュラム・マネジメント 身につけたい力を明確に									
ブレ教材 2時間									
本教材 5時間									
1 2 1 2 3 4 5									

6	研究発表等の日程・場所・参加者数	日 程 平成 30 年 8 月 27 日 参加者数 約 100 名
		場 所 大阪市立本田小学校
		日 程 平成 30 年 9 月 10 日 参加者数 約 130 名
		場 所 大阪市立本田小学校
		日 程 平成 30 年 10 月 12 日 参加者数 約 130 名
		場 所 大阪市立本田小学校
		日 程 平成 31 年 1 月 7 日 参加者数 約 100 名
		場 所 大阪市立南百済小学校
		日 程 平成 31 年 1 月 28 日 参加者数 約 150 名
		場 所 大阪市立本田小学校